

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0870700226
法人名	特定非営利活動法人 エプロン
事業所名	グループホーム エプロンハイム
所在地 (電話番号)	茨城県結城市田間中1490-2 (電話)0296-20-9050

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月3日	評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(平成19年6月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階 建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おやま城北クリニック ・ にこにこ歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、古くからの住民家屋に囲まれた場所に立地している。家族のように何でも言い合える関係であると管理者や職員が話されているように、とても家庭的であり、毎日がゆったり・のんびり・楽しく過ごされている様子が窺えた。利用者の方の表情は、生き生きしており、共に過ごす職員も明るい。老人会の訪問や、地域活動への参加、また自治会に加入するなど地域との交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については全職員で話し合いを行っており、現在検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・計画担当者を中心に、全職員で話し合いながら自己評価に取り組んでおり、日々行っているケアへの振り返りになったと話されていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの運営状況や利用者の状況、今後の取り組みについて話し合いを行っている。また、地域に根ざしたサービスの実現のための話し合いを行った結果、近隣小学校の運動会に招待されることが決まった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とのコミュニケーションは充実しており、ホーム側も面会時など声をかけ、積極的に意見を聞くようにしている。家族会の発足を検討中であるとの事だが、早急に対応をお願いしたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、利用者と共に地域の除草作業に参加している。老人会の訪問や子ども会のお囃子、おみこしの立ち寄りもある。近隣の方から、野菜の差し入れがあったり、散歩途中で声をかけてくれるなど、地域との交流が図れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	デイサービス利用者の家族からの要望から立ち上げたホームであり、地域の方に理解を得られるような理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に、理念を確認している。職員は理念を基に、日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の除草作業に参加している。老人会の訪問や子ども会のお囃子、おみこしの立ち寄りもあり、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解されており、自己評価には全職員で取り組んでいる。外部評価の結果を踏まえ、話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームは、会議で出された意見や要望をに対して、積極的に取り組んでいる。		

茨城県 グループホームエプロンハイム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と、ホームの運営について、意見交換したり相談できる関係作りが来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や電話連絡にて、利用者の暮らしぶりを報告している。主治医からの健康に関する注意事項も家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、ホームに対しての意見・不満・苦情などを家族との会話の中から聞くようにしている。		家族が、意見などを出し合える場の提供として、家族会の発足を早急をお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ離職者や異動者はいない為、利用者も落ち着いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた研修を受講している。研修内容は、全職員が周知できるようミーティング時に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県のグループホーム協議会に加入している。管理者や職員は、それぞれ同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に見学に来ていただいたり、職員が自宅に向いたりしながら、顔見知りの関係作りをおこなっている。体験入所の受け入れも可能である。併設のデイサービス利用から入居になったケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日ごろから、わからない事は利用者に聞くようにしている。干し柿づくりや郷土料理、裁縫など利用者から教えてもらう場面が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。意思疎通の困難な利用者については家族からの情報を得るようにしている。より細かな情報を得るために、生活歴の再調査を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員全員で意見を交換し介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。また、状態に変化があった場合にも介護計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの利用者の方と一緒にドライブに出かけたり、行き来したりの交流がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院に受診できるように支援している。協力病院は24時間対応可能であり、2週間に1回の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて話し合いを行っている。看取りの事例があり、マニュアルも作成している。		看取り同意書の作成を早急をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の管理を徹底している。プライバシーに関わる事柄は、話し合いの場を確保している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望に沿って支援できる様に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものや、季節・行事に合わせた食事作りを行っている。食事の準備や後片付け等、利用者と職員と一緒にやっている。外食する機会も設けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を活かし、調理や洗濯たたみ、草取り、野菜作りなどその方に合った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、利用者の希望に沿えるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	目配り、気配りしながら、全職員が鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力のもと併設のデイ利用者と一緒に年2回非難訓練を行っている。災害マニュアルも作成している。	○	今後、地域との関係性をより深めていただくためにも近隣の方も含めた避難訓練の実施、夜間想定訓練、非常食・飲料水の確保を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を栄養士に確認してもらっている。年2回の健康診断を行い、医師から指示を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けてあり、とても温かな印象であった。昼食後ソファーに横になり、食休みをする利用者の姿があり居心地よく過ごせていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたものやその方が大切にしてきたものが置かれており、心地良い空間作りがされていた。		